

11 受け継がれてきたいのち ～いのちとは何か～

指導案

ねらい	いのちとは何かを考えることで、人とのつながりと与えられた時間に気づき、多くの人とのつながりの中で、自分がどのように生きていくか考える。
準備	5～6人のグループに分けておく。 ワークシート、資料、電卓（必要であれば）

（私たちの道徳 中学校（文部科学省）3 生命をかがやかせて 活用）

時間	活動内容	留意点
5分	本時のねらいの確認 「いのちとは何か考えよう。」 ◆今まで生きてきた時間を計算する。（ワークシート）	◇今まで生きてきた時間を計算することで、生きてきた時間を感じることができるようになる。 ◇今まで生きてきた時間をもとに、これからの時間も大まかに計算し、これからの時間が長いことに気付けるようにする。
10分	ワークショップ [ワーク1]（ワークシート） ◆「いのち」とは何か考え、グループで交流する。 ・大切なもの。 ・生命。 ・いきもの。 ・生きている時間。	◇「いのち」とは何か問いかけ、思いついたことを自由に書くように助言する。 ◇生きている時間について記入している生徒に、なぜそう思うのか理由を聞き、意図的に指名する。
25分	[ワーク2]（ワークシート） ◆「生命を考える」を読んで、ハッとしたことやより深く考えてみたいことなどをグループで交流する。 [ワーク3]（ワークシート） ◆「いのちとは誰のものか」という問いに対する答えを考え、グループで交流する。 ・自分だけのものではない。 ・関わる全ての人のもの。 ・先祖から受け継がれてきて、これから自分が受け継いでいくもの。	◇資料を配付し、読む。 ◇「生命を考える」を読んで、感想を書く時間を確保し、全員が自分の思いをもてたかどうか確かめる。 ◇考えてみたいことがあれば、グループの仲間に考えを聞くように助言し、グループ内で交流できるようにする。 ◇問いに対する自分の考えを書く時間を確保する。 ◇「いのち」を「与えられた時間を人とのかかわり」と捉えている生徒に意図的に指名する。
10分	振り返り ◆じっくり考えたこと、気づいたことなど、自分が「いのち」について深く考えたことを基に、これからの自分の生き方について考え、交流する。 ・自分のいのちが誰かのいのちに影響を与えている。自分の生きる時間を誰かのため、何かを生み出すために使えるようにしたい。	◇「いのちってなんだろう<いのち>への問い」（鷲田清一）を読む。 ◇一人一人が自分の生き方について考え、仲間に語ることをできるように助言する。

<親になったときに生かしてほしいこと>

生んでくれてありがとう。生まれてきてくれてありがとう。すべてのいのちを大切に、いのちの大切さや生きる喜びを感じ、子どもに伝えられるようになってほしい。

11 受け継がれてきたいのち ~いのちとは何か~

ワークシート

◇今まで生きてきた時間を計算してみよう。

$$24 \text{ 時間} \times \{365 \text{ 日} \times \square \text{ 年間} + 30 \text{ 日} \times \square \text{ ヶ月}\} = \square$$

ワーク1 「いのち」とは…

自分の考え

仲間の考え

ワーク2

「生命を考える」を読んで考えたこと

今ここにいる不思議 いつか終わりがあること ずっとつながっていること

ワーク3

「いのち」とは誰のものか

◇これからの自分を考えよう。

あなたは、誰に愛され、誰に大切にされ、誰に必要とされてきたでしょう。

あなたは、これから何を大切に生きていきますか。

11 受け継がれてきたいのち ~いのちとは何か~

資料

いのちとは ①生物が生きていくためのもとの力となるもの。生命。
②生きている間。生涯。一生。
③寿命。

「コトバンクより」

「生命を考える」

今、自分がここに生きていることの偶然性。
誰もがいつか必ず死を迎えるという有限性。
そして
先祖から受け継ぎ、子孫へ受け渡していく連続性。
さらに、自分は他の誰でもない、
唯一無二の存在であること。

私たち人間ばかりでなく、
生きとし生けるもの全てに、
思いをはせてみる。

考えてみよう、
生命とは何なのかということ。

今ここにいる不思議 《偶然性》

地球の永い永い歴史を考え
人類の誕生を考え
そして今ここにいる自分を考えてみる。
こうやって生きていること
存在していることが
何か不思議に思えてくる。
私の周りに
いつもの笑顔、いつもの声。
でも、この人たちとの出会いも
今、ここに声明を授かっているからこそ。
星の数ほどの偶然があって
私が、今ここにいることのも不思議。
生きていることの有り難さ。

いつか終わりがあること 《有限性》

大切な人を亡くしたことがありますか。
自分の生命にも
いつか終わりがやってくる。
一度しかない
この生命の証を
自分はこの世に
どのように刻んでいけばよいのだろう。
もっともっと
生きていることを実感し、喜びたい。
そして、かけがえのない私の人生を、生命を
もっともっと輝かせていきたい。

ずっとつながっていること 《連続性》

この生命は私のもの。
誰のものでもない、かけがえのない私の生命。
でも、どこからやってきたのだろう。
—— そう
これは私が受け継いだもの。
ずっと遠い昔から受け継がれ
私が受け取ったもの。
この生命はわたしの命だけれど
私だけのものではない。
私は生命というたすきを受け取り
走り切らねばならぬ駅伝走者。
転んでも、立たなければならない。
くじけるわけにはいかない。
たすきを私に届けてくれた人たちのためにも、
そして私のたすきを
待っている人たちのためにも。

「私たちの道徳 中学校」(文部科学省) P98~101 をもとに作成

だれかが死ぬということは、その人のいのちだけに起こる出来事ではない。
その人に死なれた人びとにとってもそれは重大な出来事なのだ。

「いのちって何だろう <いのち>への問い」 著者：鷺田清一，佼成出版社